



大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成15年  
3月号

毎月23日発行  
通巻391号

(題字 矢追日聖)

★発行日 平成15年3月23日  
★発行所 大倭出版局  
〒631-0042 奈良市大倭町1の12  
☎(0742)44-0015  
★印刷 大倭印刷製  
★定価 1部 250円  
年間購読料3,000円(送料共)  
★振替口座 01050-6-67002  
大倭出版局  
URL <http://www.ohyamato.jp>



大倭会館前の梅の花 矢追房子さん撮影(文・3頁)

「一大事の因縁」の余談として

## 生母さんの霊能力について (下)

昭和49年末頃 法主様のお話より

### 歴史事実も出てくる

法主 わしの若い時、びっくりしたことが一つあるわ。

(垂仁天皇陵と安康天皇陵の話) あれ

は生母さんとわしと一緒に南の方に行く時やったな。わしが十七か十八歳くらいの時や。近鉄電車に乗るのに尼ヶ辻まで歩いて行つてん。尼ヶ辻の駅の近くで、右側に垂仁天皇の御陵あるやろ。そしたら、「あれ、あそこに御陵あるな」と言わはんねん。わし知らん顔して「御陵って分かるのか、あんなん山やけどな」って聞いたらな、「そんなこと言うたかて、おまえ見えへんのか。あの山の上に、紫の雲がかかっているがな」「紫の雲がかかっていると、何やねん」「天皇陛下の御陵だけが紫の雲がかかるねん」とこういうことを言うわけ。それで、例えば皇子さんやとか、そんな人の塚の場合は白い雲がかかると言うねん。

それに、あれは今、垂仁天皇ということになつてけるけどな、わしはどうもややこしいと思つてんねん。「そんなら誰の御陵知つて知ってるか」と、わざとな、わし聞いてん。そうしたら「あんなもの、アッコウ天皇やがな」と、ぼろつと言わはつたわ。わし、はつと思つて、やつぱりなと内心思つてるのやで。けど知らん顔して「どんな字や、アッコウ天皇って」と言うて、「山の上に字が見えてるがな」と指差すんや。「その漢字、どんな字や」と、それ書かすとほんまやねん。ましが

いあらへん。あれ、たいしたもんやなと思つたわ。わしもこれが疑問になつてん。必ず安康天皇の御陵や思つてん。それが安康天皇つて、ばさつと言いよつたもんで、その時だけはほんまにびつくりしたわ。今現在、あれは垂仁天皇の菅原伏見の東の御陵になつてるの。そして少し西に来たところの宝来の方に安康天皇陵があることになつてるんやね。ところがわしは、生母さんの言う通りあれが安康天皇陵で、その東側、今、近鉄線が通つているちよつと北側にある長池、あそこが垂仁天皇の御陵の堀の名残だと、最初からそう考えつたな。

**杉本順一** 登つていったところですか。

**法主** そうや、登つていったあの一帯。ちよつと大きさが一緒やねん。だから垂仁天皇の御陵、安康天皇の御陵とが並んで、菅原伏見の東の陵と、西の陵やねん。「何とあんだ、やつぱりえらいわ。ほんまは、わしも安康天皇と思つていろいろけど、今は垂仁天皇の御陵になつてるんや」「はあー？」言つて、それで終いやつたんやけどな。

その時に、やつぱり歴史的な現実も出るのかなと思つたわ。今の観念では、あそこは垂仁天皇陵になつてるやろ。それがばつと安康天皇と出ると言うのやから、やつぱり昔は安康天皇陵として作つたものやなと、わしはそう解釈したわけやな。それからまたあの、服装言わはるのだけは偉いわ。「安康天皇、どんな格好してはつてん」とか言つたら、その格好言わはる。時代が狂わんわ。ところがあの人は時代観念あらへんのやで、全然、歴史知らんもの。

そやから、ほんまはな、法華経の行者の加持祈祷なんてものは止めた方がええなと、何べんか思つたけどな。あの力をもうちよつと他の方に持つていったらなと思つたけど。

**反保香須弥** そんなのがばつと浮かんでくるの？

**法主** 浮かぶんじやなくて、見えるねん。

**香須弥** そばを通つたら、ばつと見えてくるの？

**法主** すぐ見えてくるんや。向こうから見せはんのやろ。自分では知らんもの、山やと思つてはるだけや。それに「あ、御陵や」とこう言わはるんやな。

その後で一ぺん、「正法のお経を唱えてこないかん」と言つてな、今度はお題目唱えに行かはつてん。そこがまた面白いのや(笑)。

(**綏靖天皇陵の話**) 神武天皇から十代は、架空のものやという学説もあるわな。あれでも、私と生母さんと一緒に行つた時、面白かつたんやで。近鉄八木駅の西口から歩いて橿原神宮へ行く途中に、綏靖天皇の御陵があんねん。そこでも、あの人は南無妙法蓮華経を唱えはるんや。そうするとやつぱり喜んでではるのか、それとも私らが来たから喜んでではるのかしらんけどや、木の葉が中央に向かつて両方からなびいてくるのや。風やつたらそんな風めつたに吹かへんで。大体一方にざつと行くわ。生母さんが指差して教えてくれるんやけど、それは私も見てるんやから、「あーつ、この木の葉、妙な動きようするわい」と思つてたんや。「これ誰やねん」と聞いたら、「スイゼイ天皇やがな」と言わはんねん。「字は？」と言つたら、ちゃんと合つてるのや。

そうしたら神武天皇(初代)、綏靖天皇(二代)、あんな天皇はやつぱり居つたんかな。ただ、あの場所が元来の綏靖天皇陵だったかどうか、言い伝えだけの話やから、ややこしい面もあるわ。しかし生母さんが綏靖天皇やと言わはるところみたら、やつぱりかなり古い時代から綏靖天皇の御陵として祭られておつたんかなと思つたりな。

そういうようなのは、生母さんと一緒にあちこち

ち歩くと、面白かつたな。

## 事実も想念も区別なく出てくる

**杉本** しかし、法主さんは法主さんで自分の持つてはるものがあつて的確なことが分かるけど、普通の場合は、言われる話を振り分けるだけの能力がないわけでしょう。いわゆる拝み屋みたいなのが、これは神さんの声やとか言つて、どんどん自分の思いを信者にぶつけて引つ張つていくとか、信仰心を逆利用される場合もあるやろしね。

**法主** 歴史的に事実であることも、想念の世界で作り上げたようなものも、霊の世界には残つていりし両方混ざつているんやな。

そういうような基礎的なことを皆ある程度理解した上で、「一大事の因縁」を読んでもらつたらええわな。北尾(ジョウ、法主様の伯母さん)の關係で終いがたは法華経の方に入つて行つたから、それで特に仏教的な色彩が出てくるのやな。(孝謙天皇の鈴の話) もう一つ歴史事実として、私が感心したのは、孝謙天皇の場合やつたんやけどね。柴田さんという人が、奈良の佐紀にある孝謙天皇の御陵で拾つた言つて鈴を持って来はつてん。柴田さんは学校の校長さんやけどな、「これ一ぺん先生に見てもらたらどうやる」と言わはつてん。そやからわし、生母さんの前で、黙つてすーつと出したんや。「これ何や面白い鈴やな。ちよつと拝んで供養してやつてほしいねん」と、そう言つてやな、ぽんと出したところが、生母さん、おかしい顔をしてるのや。

「何してんねん」と聞いたたら、「いや、これ拝まんかつたかて、何やちらちら出てきはんのや」とこ言うねん。「誰が出てくんねん」「ちよつと言いにくいのがな」「何でやねん」と、わしは

できるだけ黙ってんねん。そやけど、終いにせつば詰まってるな、「天皇陛下という男やな」と聞くと、「そりゃまあ、天皇陛下は男やろ」と返事してんな。「そやけどな、こんなこと言うたら恥かきさい、言いにくいねんけどな、コウケン天皇と字で出てくるんやがな」と言うので、「どんな字を書くねん」と聞いたら、やつぱりちゃんど孝謙天皇と書くねん。「どんな格好してる天皇や、えらいひげでも生えてるのかいな」「それがな、お姫さんが出てくんねん。わしは「へえ」ととぼけて、「どんなお姫さんやねん」と言うたら、奈良朝の服装をきつちり言わはんねん。

柴田さんが居るから小さい声で「その鈴な、じつと見てたら、こんなお姫さんがちらちら出て来はってな、どなたやと聞いてみたら、孝謙天皇と言わはんのや。そうかと思つたらな、一緒にまた聖武天皇も来はんねん(※孝謙天皇は聖武天皇の二女)。聖武天皇いうたら男やし、これはもうよう分かつたんやけど、孝謙天皇と言わはるの、お姫様やねん。これはどういふことやねん」と内緒で言うねん。大きい声で言うわんのや、かつこ悪いから。柴田さんがもう待ちきれんと、「先生、それでよろしいですねん。孝謙天皇は女の天皇です」と言うて、びつくりしとつた。

その時でもな、歴史事実が、事実としての確にでてくる場合もあるんやなと思つた。そうかと思つたら、全然、荒唐無稽なのが出てくる場合もあるしな。面白いもんやな、この霊界というものは。生母さん、この孝謙天皇の話をよく人にもしてはつたわ、あの時ほど困つたことあらへんつて。わしはイケズやもん、迎え水なんか絶対出さへん。拝み屋というのはね、あれみな、そややねんで。拝み屋のとこへ行く人は、自分が知らんと口に出してるの。迎え水してるんや。それを拾い上

げてオウム返しに言われて、あ、神さんこう言わはつたと思つてるわけや。元々私が言うてることや。それが拝み屋の手なんやからな。

わしは絶対自分から迎え水持つていかへん。お姫さんが出てくると聞いて、わしも内心ではびつくりしたんやで、ほんまは。やつぱり事実が事実として出てくるんやなと思つて。そのくせに、「天皇陛下はやつぱり男やろ」言うて、どこまでも否定の立場でいくから、難儀しはつてん(笑)。過去の現実については的確な面もかなりあつたわな。ところが仏教的に方面になると、それはもう想念の世界ばかりやものな。

病気の場合なんかでも、的確やつたな。それは医者よりも生母さんの方がよう知つてたのところがうか。腹の中の解剖なんかやつたら、生きてる人間をそのまま、霊視で見せてくれるんやもの。医者ならば解剖せんなんから、死んでからしか見られへん。生きてるままで中の姿がみな見えへんもの。せいぜいレントゲンぐらいやわな。

あんなとこ生母さんという人は、大した人やつたな。まあ、こんな話、余談やけどな。

### 表紙写真について

岸野春子

昭和42年6月号『すさのお』紙に鉄筋2階建らしい大倭会館の完成予想図が載せられている。食堂棟だけは間もなく出来たようだ。昭和43年2月23日には「すさのお会」が発足。会長は故森下新蔵さん。昭和46年9月4日(東光大祭)、プレハブ平屋建となり大倭会館が完成。以来30年以上、今もよく使われる。写真の梅の木は、娘の且田容子さんによれば森下のおっちゃん植えたものとのこと。毎年、見事に咲くようになった。

今年の1月13日、近くで大とんどの火が燃えたら、みるみるいくつか花が開いたそうだ。

### 「だまごとだま」

神戸市 上野 允士

「私のやすらぐ時」というテーマに触れて、「やすらげなかつた時」のことを思いだした。

法主さんの半径五メートル以内を身を置くこと、これはまったく、「私のやすらげない時」であつた。私は緊張し、かしまつて、法主さんと気楽に対話することなど、思いもよらぬことであつた。ひとりで邑内を歩いていて、向こうから法主さんもまたひとりで歩いて来るのに出くわしたりしたら、「これはまずいことになつた」などつぶやいたものである。

紫陽花邑にお世話になつていたころの若き日の思い出である。

私は法主さんの文章を保存している。八右手を尽くして集めているというわけではないけれども、手に入つたものは私なりに収集しているつもりである。

だから、『おおよまと』に法主さんの昔の文章が再録されるとありがたい、右手にペンを持つて、心に響く文章に線を引きながら読む。昔から相も変わらず、私の頭には入つてこない文章も多い。「ナニナニノミコト」がたくさん出て来たりすると、もうお手上げである。

けれども、再録される多くの文章に、私は強く惹かれる。ページの至る所、傍線だらけになつてしまふことも多い。法主さんの言葉を、私がどれだけ理解しているか、はなはだ心許ないのだけれども、心のあちこちで共鳴板が振動することだけは確かである。

法主さんの言葉を手元に置く。そして、それを読み続ける。最低、それぐらいのことは心がけていきたいと思つた。

(03・2・8)

## 風ぐるま

# 「青い目をしたお人形は」

— 平和の使い — 博多にて 矢部 顕

### \*アメリカで見た日本人形

青い目をしたお人形は

アメリカ生まれのセルロイド  
日本の港についたとき

いつばい涙をうかべてた

私は言葉がわからない

迷子になつたらなんとしよう

やさしい日本の護ちゃんよ

なかよく遊んでやっどくれ

なかよく遊んでやっどくれ

(作詞・野口雨情)

この歌は日本人なら誰でも知っている、古くからある日本の童謡です。この「青い目の人形」について書いていきますが、最初に「黒い目の日本人形」のことから始めます。

アメリカ・ミシガン州デトロイトの児童博物館。デトロイトといえばアメリカ自動車産業の中心地で、フォードやゼネラルモーター(GM)の本社があるモーターシティと呼ばれる巨大な都市です。その街の中心から少しはずれたところに、大都市のイメージからは意外の小さな2階建ての古い建物の児童博物館がありました。

そこに、かつて日本から贈られた日本人形があることを知っていたので、デトロイト

へ車で2時間ほどの距離の田舎の町に滞在していた折に、その博物館を訪ねてみました。

事前に電話で日本人形が保存されていることを確認してから訪問しましたので、女性の学芸員が人形を見やすい場所に展示してくれていて、私を迎えてくれました。(写真下)

「黒い目の日本人形」は確かにいました。保存状態がよいのでしょうか、古さをまったく感じさせない見事なものでした。身長80cmくらいの立派な美しい市松人形で、「Miss Akita」という名前がついていました。その人形が携えてきたバスボートと日本郵船会社の船の切符も保存されていました。この人形はバスボートを持ち、客船のファーストクラスに乗って、日本からはるばるアメリカにやってきたのです。

バスボートには顔写真とともに名前と特徴が記載されていました。Name-Miss Akita, Eyes-Black, Hair-Black, Nose-Medium, Mouth-Small, Place of Birth-Akita Prefecture, Japanと書かれていました。発行は1927年と書いてありましたから、いまから75年前に秋田県からやってきたことがわかります。

どうして、この日本人形はここに居るのでしょうか。

### \*子ども同士の交流の期待

「人間はほかの動物とちがって、ちがう土地にそだった人間を、自分たちと同じ人間と考えないで、殺したり、追いはらったりする習慣をつくりだしてきた。このことは、今でも人類にとつてもっとも深刻な思想上の問題だ。戦争の時にはいろいろの理由をつけて、戦っている当の相手でない子ども、女、年寄りまでも殺すというやりかたを今もつづけている」(鶴見俊輔氏)



交通の発達、情報網の高度化によって、地球は狭くなつた、国際化時代だ、グローバル化だといわれていますが、戦争がなくなつたわけではありません。「20世紀は戦争の世紀だったが、21世紀はそうでないように」という願いは、新世紀になつたとたんにむなしなものになっていきます。

ことばや文化の異なつた国の人々が仲良くすることはなかなか難しいことです。かつて、世界に共通語ができれば平和になると考えてエスペ란 ト語がつけられたりもしました。

いま教育の世界では、国際社会に対応できる日本人の育成ということで、国際理解教育、異文化理解教育の必要性が叫ばれるようになってきました。修学旅行で、アメリカ、中国、韓国などに海を越えて旅にでる学校も非常に多くあります。

私が仕事にたずさわっている団体でも、30年にわたつて青少年の国際交流ホームステイを実践してきました。子どもが国境を越え、民族の違いをこえて、もうひとつの家族・兄弟姉妹をつくり、心を通わせようことの願いを実現してきました。異なる国の子ども同士が仲良くなれば、その子どもが大人になったときに世界は平和になる、と考えた人が75年前にもいたのです。アメリカ人で、日本で宣教師をした経験もあるギユリックという人です。でも、仲良くしようにもアメリカの子どもが日本に行つたり、日本の子がアメリカに行つ

たりすることのできる時代ではありません。そこで子どもの代わりに人形を送ることを思いついたのです。

### \*アメリカから人形が来た

ギユリックさんは日本人が人形をとでも大切にすることや雛祭のことを知っていません。アメリカの子どもが日本に行くことはできないが、その気持ちをもて人形を贈ることを全米の人々に呼びかけました。

1927年の日本での雛祭に間に合うようにと、約1万3千体の青い目の人形が全米から集められ、ミシシッピ川以東はニューヨークから、以西はサンフランシスコの港から船にのって海を渡ってきたのです。

人形のボディを人形メーカーから買って、少女や母親たちが心をこめて手作りの衣装を縫って着せたのです。目が開閉し、寝かせると「ママ」と泣く仕掛けがあり、*Mama Voice Doll* といいました。

特別旅行免状（パスポート）と手紙をたずさえてきました。手紙にはこう書かれていました。「彼女は友好使節として日本を訪問し、雛祭を見学することになっています。この使節はアメリカの少年少女を代表して、友情のこぼれをあなたに伝えるものです」

横浜の港では盛大な歓迎会が催され、その後、



日本各地の小学校に旅立っていったのです。そのころ日本には約2万5千の小学校があったといえますから、単純に計算すると2校にひとつの人形が来たことになりました。

3月3日、日本各地の小学校で、お雛さまとともに青い目の人形が仲良く飾られ雛祭が催されました。遠いとおい国からやってきた青い目をした人形をはじめて見た子どもたちは、どんなに喜び、未知の国への憧れをもったことでしょう。

### \*答礼の黒い目をした人形

お礼に日本人形をアメリカに贈ろうと、青い目の人形を受け入れた小学校の児童250万人から一人一銭の募金が集められ、有名な人形師に日本人形の制作を依頼しました。それぞれの県で一体の、それはすばらしい粋をあつめた芸術品ともいえる日本人形がつくられて、クリスマスに間にあるように、パスポートと客船の1等切符をもった58体の黒い目の人形が海を渡っていったのです。

横浜の港では壮行会が挙行され、太平洋を渡った船が到着したサンフランシスコの港では、それは熱狂的な歓迎会がもたれたようです。その後、列車に揺られて全米500の都市を訪問し、約1千回の歓迎会が各地で開催されたとのことで、これまた、はじめて見る日本人形にあつい友情の絆を感じたということが想像できます。

そうしたのちに、各州の美術館、博物館などに受け入れられ、いまでも州にひとつ保存あるいは展示されています。

私がミシガン州デトロイトの児童博物館で出会った「Miss Akira」は秋田県の子どもたちから贈られた人形だったのです。友禅縮緬に本金の帯、簪、足袋で装い、長持、裁縫箱、鏡台、筆筒、日傘、駒下駄、草履など、まるで嫁入り道具一式

がそろっていたのには驚きました。私が出会った彼女は「Miss Akira」という名前しかわかりませんでした。それが、それぞれに素適な名前がついていたようです。例えば、佐賀県からは「鍋島 肥佐子」、沖縄県からは「沖繩 球子」というふうには。

どの県から贈られた人形が何州のどこにあるかを一覽表にしたものがあります。58体と都道府県の数より多いのは、日本統治下にあった樺太や台湾、朝鮮からも送ったようです。それと日本全体を代表して贈られた人形もあり、名前は「倭 日出子」といい、首都ワシントンのスミソニア博物館にあります。ここを訪ねたことがあるのですが、突然でしたので見るのができませんでした。2週間前に予約する必要のあることを知らなかったのです。考えてみれば、大切に保管するために、常時展示しているとは限らない理由は理解できます。1週間後には帰国しなければならなかったのですから、会えずに残念でした。

### \*青い目の人形はどこへいったのか

日本に贈られてきた1万3千体の青い目の人形の、そのひとつでも見たことがある人がいるでしょうか。多くの人は見たことがないでしょう。なぜでしょうか。

1941年から45年まで、アメリカと日本の間で戦争の時代、太平洋戦争がありました。アメリカをやっつけるために、日本では軍隊だけでなく子どもまで戦わねばならない雰囲気の中で、いわゆる軍国主義の時代でした。敵国のことは英語も使つてはいけなかったのです。野球の試合で「ストライク・ワン」は「よし・一本」、鉛筆の「2B」は「二軟」と言っていました。「米英鬼畜」といつて「アメリカやイギリスは人間ではない。鬼や畜生（けだもの）だ。だから殺せ！」

と全部の国民が叫んでいた時代でした。戦争とい  
うのは人間をクレイジーにするのです。

だれが命令したのでしょうか。軍の命令か、文  
部省なのか。「敵を撃つべし」は青い目の人形ま  
でも巻き添えにしたのです。

「あの人形は、日本の子どもをだますために送  
ってきたもので、あの人形を持っていてる学校は、  
すぐに叩き壊すなり、焼き捨てるなり、撃つべし」  
とやり玉にあがったのです。敵愾心高揚のために、  
竹槍で突きこころす、全校児童で踏み殺す、校庭で  
火あぶりにして焼き殺す、学校の側の池に石をつ  
けて沈め殺す。ありとあらゆる手段で友情の人形  
は処刑されていったのです。

しかし、そんななかで良心的な教師もわずかな  
がりました。あまりにもかわいそうだと思い、  
アメリカの人の友情を想い、人形を隠したのです。  
処刑の日が近づく前に、決死の覚悟で「人形を探  
したけれど倉庫にありません」と報告し、屋根裏  
に、自宅に、と隠したのです。

その数はほんとに少しです。九州でいえば、福  
岡県では可也小学校にひとつだけ。大分県で3つ。  
熊本県で2つ。宮崎県でひとつです。佐賀県、長  
崎県、鹿児島県は皆無です。たったこれだけしか  
生き残っていません。(ちなみに奈良県は144  
体のうち現存するのは3体です)

アメリカに渡った黒い目の日本人形は、私がミ  
シガン州で出会った人形のみならず一体のこらず  
健在で、保存展示されているのです。

### \*青い目の人形「ルース」に会いに行く

福岡市のすぐ西、糸島郡志摩町。糸島半島の真  
ん中に糸島富士と呼ばれる低山ながらも姿の美し  
い可也山があり、そのふもとの田園風景のなかに  
可也小学校があります。この小学校に福岡県で唯

一現存する青い目の人形があり、彼女に会うため  
に博多の子どもたち20人を連れて訪れました。

校長の徳田先生は、昔の新聞のコピーや人形に  
ついての説明を書いたプリントを自ら作成して、  
お話をしてくださったのです。

「ルース」と名づけられた青い目をした女の子  
の人形がやってきたとき、盛大な歓迎会がおこな  
われ、児童たちが見知らぬ遠い外国からやってき  
た人形を熱烈に歓迎したことが、保存されていた  
当時の新聞や小学生の作文から想像することがで  
きます。青い目の人形「ルース」とともに、なん  
とその時の児童の作文も保存されていたのを見る  
ことができました。

当時の小学生でこの作文を書いた人が町内に存  
命されていて、可也小学校の生徒が訪問し、80歳  
を過ぎたおじいちゃんから当時のことを聞く機会  
をもったとお話には驚きました。

福岡県には259体の青い目の人形が贈られて  
きていたそうですが、現存するのは、この「ルー  
ス」だけです。(5頁写真)

1979年、可也小学校校舎建替え工事の折、  
古い木造校舎の昔の裁縫室の屋根裏で「ルース」  
が発見されました。全国の小学校で人形処刑の嵐  
が吹き荒れるなか、可也小では何回も職員会議で  
処分を検討されたが結論がでないまま、ある教師  
によって密かに隠され、発見されたのは戦争が終  
わってから35年後のことです。

発見されてからは大切に扱われ、校長室に保管  
されていたのですが、現校長になってからは、全  
校生徒がいつでも見ることができるようにと、玄  
関横の廊下のガラスケースに飾られていました。

1987年、「ルース」は還暦を迎え、アメリ  
カに里帰りをさせてあげようということになりま  
した。ひとりで行くのは寂しいだろうということ

で、一緒に旅を共にした人形がいます。志摩町の  
可也小学校にちなんで「志摩 可也」と名づけら  
れた市松人形で、彼女はそのまま新しく結ばれた  
カリフォルニア州の姉妹校にとどまっています。

「ルース」は身長35cmぐらい、金髪、青い目で、  
当時の衣裳が傷んでしまったので可也小の先生が  
作ってあげたエンジ色のオーバーコートを着てい  
ました。靴は片方紛失していて、レース編みの帽  
子をかぶっていました。当時のままの、「亜米利  
加からの奇贈人形」と右から左に書かれたガラス  
戸のついた木箱のなかの「ルース」は、顔にシミ  
もでき塗料も一部剥げかかっていたけれど、いま  
もどつてきたように見えました。私と同行した子ど  
もたちに手渡され、順番に抱きかかえている姿を  
みると、75年前に同じ光景があつたことを想像し  
ます。

お雛さまと一緒にならんだ青い目の人形「ルー  
ス」を囲んで、当時の子どもたちが祝う雛祭で、  
「灯りをつけましょ、ボンボりに……」の歌とと  
もに、「青い目をしたお人形は……」の歌も合唱  
されていたのでしょうか。

### 「ほれずみ」 長野県下伊那郡 河本 明代

縁あって南アルプス山麓の村に来て、いつのま  
にか20年近い歳月が流れてしまいました。当初は  
まるで大倭の草創期のころのような自給自足的な  
暮らしでしたが、何と、今や一日コンピュータに  
向かう生活に変身。子どもの学費を稼ぐためにと  
在宅でできるテープ起こしの仕事を始めたので  
すが、これが思いもかけぬ面白さ。山奥でひっそり  
暮らしているだけでは決して聞くことのできな  
ような話の数々です。これもまた1つのご縁かな  
と思う今日のご縁です。(※『おやまと』紙  
のテープ起こしもお世話になってます)

# 寸 莎

## 第54回

竹 本 佐紀久さん



### 見えない世界

今回登場してもらおうのは、大倭で生まれ育って、現在は大倭安宿苑の救護施設の須加宮寮で仕事をしている竹本佐紀久さんである。ごく最近に体調を崩して、そのことが施設での仕事のあり方を考え直すきっかけになったという話を耳にして、ぜひ話を聞かせてもらおうとインタビューに臨んだ。

竹本さんは昭和四十一年十月十一日に、反保隆臣さんと良さんの五人の子供の末っ子として大倭の自宅で生まれた。長姉の香須弥さんとは十二も歳が離れていたから、「兄や姉達には厳しかったという父親からも、一回しか怒られたことがない」というような大切な育て方をされたらしい。「幼稚園の時、家で台の上に乗って〈ピンキーとキラーズ〉の歌を振りを付けて皆の前で歌っていた」というエピソードからも、幸せな子供時代を容易に想像できる。

筆者には、子供時代の彼女が小熊のようにコロコロしていたという記憶があるのだが、「小学三年から中学一年頃まで太っていたのだが、六歳上の利通兄さんが、ブルースリーの影響で体を鍛えるのにつき合っているうちに、急に十キロもやせてしまった」という事情があったらしい。

他の大倭の子供達と同じように、富雄南小学校、富雄中学校と進んだが、彼女には、「外の子供達も遊びに来ていたし、自分が特に〈大倭の子〉という自覚はなかった」と言う。法主様にしても、「すごい人とは思っていたけれど、特別な人というより、何でも頼んだらやってくれる人」というような身近な存在として感じていたようである。

高校は、「本当に行きたい私学があったのだが、公立に行つて欲しい」という周囲からのプレッシャーも感じて、「奈良商業高校へ進む。友達とのつき合いは楽しかったけれど、勉強は好きでなかった」と笑う。

高卒後は、「ぜひ就職したかった」資生堂に入社し、美容部員として働きはじめた。吉野の上市や奈良の学園前の支店等での化粧の指導や販売の仕事はやりがいがあったようだ。「基本的には人とつき合うのが好きだし、接客業が自分には合っていると思う」と自己分析する。

この間に結婚し、長女の千阿貴さんを二十一歳の時に産んで、しばらくしてから資生堂を退職したが、そのあともパートで美容部員の仕事を続けている。その後、謙祥くん、良成くんと子宝に恵まれたが、平成九年には大倭に戻り、あちこちでパートの仕事を経験した。

そろそろ定職をさがそうと思つていた時に、今まで考えもしなかった「大倭の施設で働くのはどうか」というアイデアが心に浮かんだ。そして、須加宮寮の寮母主任をしていたことのある母親に、「施設ではどんな仕事をするの」と聞くと、「家でしているのと同じようなもの」との答えが返ってきた。「自分の中で何が弾けて」、平成十一年四月から須加宮寮で介護の仕事をはじめた。

働きはじめて一、二年は、「住苑

者に対して元気にやさしく接している自分がいて、仕事は全く苦にならなかった」。でも、三年も経つと、「疲れて口先だけで住苑者と接することもある自分に気づいて」、悩むこともでてきた。それでも住苑者が、「しんどいんか」とか、「明日も来てくれるの」とか言ってくれたらすると、嬉しくて元気づけられた。

そこで、冒頭の体調の話に戻るのだが、今年二月に入ってから珍しく熱が出て二日間寝込んだ。そのあとも、「肩がこったり、喉が極端に重かったりで、一体これは何だろう」と考え込んでいた。あるきっかけで、「最近施設で亡くなった人の暗い思いが自分に影響している」と思うようになり、「今まで本気に考えたこともなかった頭幽不二といった法主さんの話しが気になりはじめた」と少し照れながら語る。「向こうの世界に帰つていった住苑者の気持ちも大切にしながら仕事をしなくては」と少しずつ思うようになっていく。

今は大倭のすぐ近くに三人の子供と住んでいるが、「大倭の父母が助けてくれるとは言え、仕事と子育ての両立は大変でテレビを観る時間もない」と言うが、「中二の長女がいい話し相手になってくれる」と嬉しそうに話してくれた。

(聞き手 岸田哲)

# あじさい日記

2月14日 元須加宮寮職員の高津恒平さんが来邑、交流の家に泊られました。

2月15日 大倭神宮月次祭。

2月16日 故我原芳子さんの一年祭が大倭町内の自宅で行われ、邑人多数もお参りしました。

2月19日 三重大学生の水野秀和君が大倭神宮を参拝後、来邑して杉本順一さんが応接。多くの神社に行ってきたが、大抵どこでもご利益の説明があったので、神社に行けば何か願い事をしなければならぬものだ、と思っていた」とのこと。常にご利益信仰を否定されてきた法主様の話をすると「少しすっきりしました」と言っていたとのことです。

2月20日 午後2時から大倭病院の役員会が開かれました。大倭印刷(株)が、切手・はがき・印紙の販売を始めました。

2月23日 午後1時から大倭

**第三絃演奏会**  
紫鳳会主催

とき：2003年3月30日(日)  
ところ：大倭拜殿にて  
開演：午後1時30分(1時開演)  
出演：大倉佐和子・紫鳳会門人  
ゲスト：永廣孝山・中真希子  
入場無料  
お茶とお菓子を用意してお待ちしています。  
お問合せ 06-6902-5405 大倉湯浅  
0742-48-3389



神宮で申孝祭、午後2時から大本宮で月次祭が行われました。この日の法話テーマは平成6年2月23日の分。国や民族を超えた心のつながりのお話には、現在のアメリカ、イラク問題も考えさせられました。(同年6月号『おおやまと』に掲載)

2月24日 津名道代さんが奈良に来たついでにと来邑、青山日元さんにも会われた後、「和み」で岸野春子さんが、(社)全日本難聴者・中途失聴者団体の相談役として、こういう人達の高齢化の問題を考えておられるとの話を聞ききました。

2月22日、3月4日 F I W C 関西委員会は中国のハンセン病回復者のヤンケン村で3回目のワークキャンプをしました。

2月27日、3月1日 12回目となる大倭病院・あじさいの箱の合同作品展。ますます盛況でした。写真は大倭病院看護師絵手紙教室からの発表。

3月2日 杉本順一さんから12人が、枚方市にあるアテルイとモレ(蝦夷の長)の塚に行きました。桓武天皇の征夷軍をはね返した実力者だが、講和のために都へ来たところ斬首された場所とのこと。詳細は4月号で。

3月6日 横浜市の立石淳二さんとお父さん(京都市)、多田祐子さん(大津市)が相談のため来邑、午後は大倭神宮月次祭で参拝されました。多田さんはインターネットで『おおやまと』を読んで、こられたそうです。矢追房子さんが短歌と写真でまとめた自分史『悠・結・幽』を自费出版されました。

3月9日 栃木県の中野欽二郎(本名・英樹)さんが大倭会館で3回目の作陶展。

3月10日 祝会。そこへ東京都町田市の得田コスモさんが、京都府向日市の保育園に就職されたそう、で、早朝から車で引越して来た、母(典子)・妹(毛毛)・叔父(梅澤弘)さんと共に、挨拶のため立ち寄られました。

大倭安宿宛では  
2月1日 昔、長曾根寮寮母だったことのある大西弘美さんが、また苑で仕事をされることになり雉子寮に住むそうです。  
3月10日 八重垣園出火想定で避難訓練実施。その後、あすか広場で消火器による消火訓練も行いました。

# あんない

\*月次祭(大倭神宮)  
4月6日(日) 午後2時より大倭神宮にて。

\*須佐緒祭(大本宮)  
4月8日(火) 午前11時より大本宮拜殿において祭典を行い正午より各自持参の弁当などで園遊会を行います。

すさのお祭とは、宇宙万物一切の顕幽両面における一体のもとなる須佐(結び)の緒に感謝をするお祭りです。

\*月次祭(大本宮)  
4月23日(水) 午後2時より大倭大本宮拜殿にて。

\*大倭会主催第一三回祝会  
4月13日(日) 午後2時より大倭大本宮拜殿にて。

\*箭負祭(大倭神宮)  
4月15日(火) 午後2時より大倭神宮にて。

箭負祭とは、皇祖天神の鎮ります登美の神奈備(大倭神宮)の靈威を法主日聖大恩師の遠祖(箭負氏)が代々祭祀し、神仕えしてきたことを記念するお祭りです。

**第273回 大倭会文化行事**  
**春の桃山、桓武天皇陵と明治天皇陵**

平安時代、明治時代と思いを馳せながら軽いハイキングで一日を過ごす。

日時 平成15年4月20日(日)  
午前10時40分集合

場所 近鉄「桃山御陵前」駅改札口

交通 近鉄西大寺10:09発 京都行き急行に乗車、桃山御陵前10:39着

コース 駅……桓武天皇陵……明治天皇陵

昼食をはさみ、ゆっくり1時間程度のハイキングです。

※弁当持参、小雨決行

世話役 湯浅芳郎(電話0742-48-3389)

(菅原園)  
3月4日 ひなまつり行事。最近入園した3人の女性住苑者にお雛様の衣装を着てもらったり、色々遊びました。

(須加宮寮)  
2月20日 卓球大会。住苑者・職員・実習生が参加して熱戦。

(長曾根寮)  
2月22日 ボランティアさんの協力で「喫茶倶楽部あじさい」が行われ、約50名の方が利用。

(八重垣園)  
2月26日 俳句の会。「山茶花を手折って句詠む散歩道」「白梅や一人小部屋の香の溢れ」